

授業科目名	環境教育論	教員名	坂倉 真衣	免許・資格との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	
					保育士	
授業形態	講義	担当形態	単独	卒業要件	こども音楽療育士	
科目番号	SID320	配当年次	3年後期		小幼コース	選択
単位数	2単位				幼保コース	選択
科目	大学が独自に設定する科目（幼稚園及び小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等						
科目						
系						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の目標、内容、方法、そして、発展過程や理念について理解する。 ・幼稚園や小学校における環境教育のカリキュラムや授業構成の方法を理解する。 ・幼稚園や小学校における環境教育の現状とその課題を把握する。 ・環境教育の指導計画の作成や学習指導に必要な基礎的な考え方、内容を理解する。 					
授業の概要	<p>科学技術の発展やそれに伴う経済成長は世界的な環境問題（地球温暖化、生物多様性の喪失等）を引き起こした。このような状況下であるため、環境教育の推進は喫緊の課題である。そして、環境教育を教える教員は環境教育に関する基礎的知識・技能を身につけることが必要である。そこで、本授業では、環境教育の発展過程、現状、課題を踏まえ、環境教育の目的や内容及び方法と環境教育のカリキュラムや授業構成の特質を明らかにすることを目的とする。また、調査や実験を実施し環境教育の一環として行われている科学的アプローチを体験する。授業形態は講義を中心とする。アクティブラーニングとして、調査、実験、調査・実験のプレゼンテーション、ペア・グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
SDGsとの関連	<p>本講義は、将来教員として必要となる環境教育、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development : ESD）を構想できる力を育てるものであり、国連が目指すSDGsと全面的に関連する。特にSDGs目標のうち、「目標4 質の高い教育をみんなに」「目標6 安全な水とトイレを世界中に」「目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「目標11 住み続けられるまちづくりを」「目標13 気候変動に具体的な対策を」「目標14 海の豊かさを守ろう」「目標15 陸の豊かさを守ろう」に関連している。講義前半では世界が抱える環境問題や環境教育、ESDの概要について理解し、講義中盤では過去に砒素公害が起こった宮崎県高千穂町土呂久地区へのフィールドワークを通して地域における環境問題を知り、現状、課題について考察を行う（目標6、7、11、13、15と関連）。講義終盤では、「環境教育」「持続可能な開発のための教育」に関する教材の構想・作成する（目標4と関連）。講義を通して、持続可能な社会づくりについて自ら考え、行動することのできる幼児、児童を育てることのできる環境教育、ESDについて構想できる人材となることを目指す。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業計画	<p><u>第1回：世界が抱える環境問題と環境教育の目標、内容、方法</u> 地球温暖化、生物多様性、食料・水・人口に関する環境問題の現状及び世界的な環境問題への諸国の対応、環境教育の目標、内容について解説する。また、現在、学校における環境教育の進め方を理解し、環境教育を学ぶ重要性について検討する。</p> <p><u>第2回：環境教育の理念と持続可能な開発のための教育（ESD）</u> 環境教育に関する国際的な取り組みや持続可能な開発の理念を踏まえて、環境教育の発展過程を解説する。それを踏まえ、その基盤となる環境倫理的な児童の情操及び環境倫理思想の歴史について検討する。</p> <p><u>第3回：環境幼稚園・小学校における環境教育の現状とその課題</u> 現在、日本各地、宮崎県内で行われている幼稚園・小学校における環境教育実践例をグループで</p>					

	<p>調べ、発表する。各グループの発表を踏まえ、その課題について検討する。</p> <p><u>第4～10回：地域における環境教育事例—宮崎県高千穂町土呂久地区（仮）</u></p> <p>地域における環境教育の事例として宮崎県高千穂町土呂久地区で起こった鉱害について学習する。土呂久地区へのフィールドワークを中心に、土呂久鉱害について学び、地域事例から現在の地域環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力等について考察を行う。</p> <p>・第4、5回：事前学習</p> <p>インターネット、視聴覚教材、土呂久歴史民俗資料室への訪問等を通して、土呂久鉱害の歴史、現状について理解する。第5回以降のフィールドワークに向けて、自ら「問い」を持ち、疑問点、課題等をまとめる。</p> <p>・第6、7、8回：土呂久地区フィールドワーク</p> <p>土呂久地区へフィールドワークを行う。土呂久地区の豊かな自然環境を自らの目で見、現地の方の講話を聴き、土呂久の現状や人々の想いを理解する。</p> <p>・第9、10回：事後学習、まとめ</p> <p>土呂久地区へのフィールドワークで学んだことをまとめ、報告を行う。各自の報告の後、グループディスカッションを通して、土呂久の事例から、現在の環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力について考察し、まとめる。</p> <p><u>第11、12、13回：「環境教育」「持続可能な開発のための教育」に関する教材の構想・作成</u></p> <p>これまでの講義、各自の土呂久地区フィールドワークの振り返りを踏まえ、土呂久地区やそれに関連することを題材にした「環境教育」「持続可能な開発のための教育」に関する教材（紙芝居、絵本、教具、ppt資料など）を作成する。</p> <p><u>第14、15回：本授業のまとめ</u></p> <p>本授業のまとめとして、グループで作成した「環境教育」「持続可能な開発のための教育」に関する教材を活用して模擬保育または模擬授業を行う。これまでの学習、ディスカッションを踏まえ幼児期・児童期の環境教育の在り方について検討する。</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>授業時に課す演習レポートの内容30%、定期試験の成績70%で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>授業外学習について</p>	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回講義後に、次回の講義内容を伝えるので、事前にテキストの関連箇所を読み、不明な点や疑問点を明確にしておくこと。</p> <p>事後学習：毎回の講義内容や関するレポートやグループ課題を課すので、次回までにまとめておくこと。</p> <p>その他：毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>・『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境教育指導資料 [小学校編]」、国立教育政策研究所、2007、東洋館出版社。 ・「環境教育を学ぶ人のために」、御代川貴久夫、関啓子、2008、世界思想社。 <p>上記以外は、授業の展開に合わせて紹介する。</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>地球温暖化、生物多様性、食料・水・人口に関する問題など現在地球規模で様々な環境問題が深刻化しています。環境教育論は、これらの環境問題に対して、主体的に考え、解決に向けた行動をとることのできる幼児・児童を育てることのできる環境教育を構想する上で必要な知識、考え方を身につける講義です。世界規模でSDGsを達成していくためにも、環境教育、持続可能な開発のための教育は、今後益々重要となります。本講義では、環境問題についてより実感を持って理解するため、宮崎県高千穂町土呂久地区へのフィールドワークを計画しています。地元地域へのフィールドワークを通して経験したことを丁寧に振り返り、まとめ、考察をすることで、将来、教師として「環境</p>

	教育」「持続可能な開発のための教育」を担う上で必要な知識、考え方を身につけて欲しいと思います。
オフィスアワー	毎週水曜日 9:00～12:00